











# 日本人コロノは 耕地に落付かぬ

ペント・サンパオ氏の反日論

伯國名士の日本移民觀を特輯せる本紙八七七號三  
所載ブラジル農務局長ペント・サンパオ氏が  
「チアオリ・カオリ」記者に語れる談話中「日本移民  
の入國に反対せることなし」とあるはその後アルベ  
ルト・トリス協會を通じて矢張り氏が日本移民反  
對説を支持するものと發せられた

## 帝國的観念を有し合せず

一八七〇年までは常にこれを  
追及せる他國の下に屈從し  
てゐた、入國した彼等はボル  
トガル人と同様聖州人と融  
合し今は立派なブラジル人  
に化してゐる

## 大陸別カエ

今期上半  
三(九三  
三)七月  
三(九三  
三)七月  
三(九三  
三)七月

## 輸入高

今期上半  
三(九三  
三)七月  
三(九三  
三)七月

## 五頁より續く

語、習慣、宗教の酷似せるた  
め聖州に住んで殆んど州民と  
異らざる問題を惹起したこ  
とが、

## 私

限賛成論者である、若  
し現在の五歩に制限せんと  
する「イデリス・レイス案を  
適用すれば一九三四年度  
の黄色移民入國許数は六千  
九百八十五人となるべき管  
である、又これを各移民に適  
用するにせよ左の数字が得ら  
れるのである(自一八二七至  
一九三三入國數を標準とす)

## 合

計三三六、二二二(三三三)四  
本人が農業者として優  
秀なるものは、私はミダ  
も異論はない、私はミダ  
も異論はない、私はミダ  
も異論はない、私はミダ

來てゐる、余はこれを我が國  
の主權に對する最初の打撃と  
考へる

## 移轉

今般ルア・アロシエ廿三番よりラルゴ・アロ  
シエ一四(電話五二二六六七)へ移轉致し  
ました何卒舊の御引立を願ひます

## カザ東郷

中山伴一郎

## 奉祝天長節

家具並特許洋服掛  
カーザ・ハマオカ  
聖市サンタ・エフジニヤ街五二  
電話 四六一七二

## 奉祝天長節

浅野義一  
聖市セナドル  
フエジヨ街一四番

## 奉祝天長節

サンパウロ  
日本人學校父兄會  
R. Sao Joaquin, 67

## 奉祝天長節

父兄會 寄宿舎  
R. Senna Madureira, 136

## 奉祝天長節

山本商店  
サンセバスチオン・ピラペーラ・サクガランヂ  
製造分所 同

## 奉祝天長節

聖市中央市場商事組合  
組員 (順序不同)  
若月 操 安田友次郎 若月 操  
義村 取吉 志村己代治 田野丸十郎  
彌光 高之 伊佐真次 由迫紋伍  
西國 隆雄 嘉陽宗三 佐藤唯七  
仲眞 良能 森三藏 眞里谷正己  
比嘉 爲吉 豊吉竹次郎 岡部英一  
千種 増吉 佐久田カメ 阪井マリヤ  
尾形 廣弘 鹿毛峯次郎 山田延夫  
川本 廣太 松本 叶 西岡 廣一  
藤村 守貞 尾上 藤次郎 津崎 貞幸  
Carlos J. Pinto

# 聖壽萬歲

## Noishiki & Cia.

Avenida Condessa São Joaquim, 42  
Caixa, 465 - Tel. 7-2206 - S. Paulo

治療及び營業時間 ● 午前九時 ● 午後五時

本店 = 東京 = 特別專賣店 北米羅府、新嘉坡、代理店各地

## 奉祝天長節

山本商店  
サンセバスチオン・ピラペーラ・サクガランヂ  
製造分所 同

サンパウロ  
日本人學校父兄會  
R. Sao Joaquin, 67

父兄會 寄宿舎  
R. Senna Madureira, 136

奉祝天長節

## 奉祝天長節

聖市中央市場商事組合  
組員 (順序不同)  
若月 操 安田友次郎 若月 操  
義村 取吉 志村己代治 田野丸十郎  
彌光 高之 伊佐真次 由迫紋伍  
西國 隆雄 嘉陽宗三 佐藤唯七  
仲眞 良能 森三藏 眞里谷正己  
比嘉 爲吉 豊吉竹次郎 岡部英一  
千種 増吉 佐久田カメ 阪井マリヤ  
尾形 廣弘 鹿毛峯次郎 山田延夫  
川本 廣太 松本 叶 西岡 廣一  
藤村 守貞 尾上 藤次郎 津崎 貞幸  
Carlos J. Pinto







奉祝天長節  
中野 巖

奉祝天長節  
尾山商店  
レヂストロ

奉祝天長節  
渡邊 太郎  
レヂストロ

奉祝天長節  
奥村ブリキ  
細工店  
レヂストロ

奉祝天長節  
池内辰三郎  
カフェランジャ

奉祝天長節  
田中 龍介  
カフェランジャ

奉祝天長節  
齋藤清太郎  
カフェランジャ

奉祝天長節  
尾崎孫三郎  
カフェランジャ

奉祝天長節  
吉本 環  
リンス町

奉祝天長節  
木村 倒  
リンス町

奉祝天長節  
伊藤三藏  
カフェランジャ

奉祝天長節  
村上茂人  
ノロエステ線  
グワランタン驛

奉祝天長節  
吉田音作  
ノロエステ線  
グワランタン驛

奉祝天長節  
山中進  
ノロエステ線  
グワランタン驛

奉祝天長節  
松浦商店  
雜貨商  
プ・ウエッセセラウ町  
郵便四八

祝 奉  
久保久治  
ジュキヤ線イタリリ驛

祝 奉  
翁長福三  
齒科醫院  
ジュキヤ線イタリリ驛

祝 奉  
藤原久人  
カフェランジャ

祝 奉  
福原信義  
カフェランジャ

祝 奉  
隅田菓子店  
各種パン・和洋菓子・機械煎餅  
並マンジュウバ製造 卸賣  
レヂストロ市街地

祝 奉  
土田菓子店  
和洋製菓卸小賣  
レヂストロ

祝 奉  
北島弘毅  
藥劑師  
レヂストロ

祝 奉  
山原郷一節  
レヂストロ

祝 奉  
前田洋服店  
レヂストロ

祝 奉  
前地七郎  
レヂストロ市街地

奉祝天長節  
イタリリ  
日本人會  
ジュキヤ線イタリリ驛

奉祝天長節  
杉本金松  
内外雜貨商  
ガソリーナ・テシヤコ販賣店  
ソコバナ線クワター町 郵便七五番

奉祝天長節  
出利葉商店  
レヂストロ

奉祝天長節  
渡邊兄弟商店  
雜貨類・ビンガ製造販賣  
レヂストロ市街地 郵便三番

奉祝天長節  
大塚吉太  
農産物仲買  
リンス市

奉祝天長節  
和泉春一  
齒科醫院  
リンス市

奉祝天長節  
加藤 憲  
醫師  
リンス市

奉祝天長節  
師富卷藏  
珈琲精撰所  
リンス市  
電話二三四 郵便二〇四

奉祝天長節  
宿泊所  
病人本意宿泊無料  
贈カフエ附一日五軒・一食二軒  
醫師、藥は御希望に依り御案内致します  
リンス互助愛善組合  
安田貞喜

奉祝天長節  
宿泊所  
安田貞喜

奉祝天長節

- リンス 商工組合 (いろは順)
- 原 實 末 造
  - 濱 崎 三 郎
  - 大 西 留 三 郎
  - 我 那 宗 輔 郎
  - 川 越 銀 太 郎
  - 高 橋 忠 一 造
  - 高 橋 忠 一 造
  - 田 中 庄 助
  - 中 村 仁 太 郎
  - 中 須 矢 吉 郎
  - 青 木 良 助
  - 相 原 龍 平
  - 下 矢 治 三 郎
  - 庄 山 一 才 吉
  - 菅 山 輝 吉

奉祝天長節

- カフェランチャ 商工組合 (イロハ順)
- 伊勢屋ホテル
  - パール佐藤
  - 竹内商店
  - 副島商店
  - 黒田製菓所
  - 丸石ホテル
  - 藤澤醬油製造所
  - 福原信義商會
  - 平野産業組合
  - 森本商店
  - 菅山商店





### 最近の農産物

#### 市價はさう變動するか

サンパウロ總領事館農産物部發表

### 珈琲

珈琲のサンパウロ港の輸出量は三月は約百俵位で本月は月末迄に八十俵位に達する。...

### 棉花

聖州棉花の最終稼働率は綿花九千七〇〇キログラムと見られてゐる。...

### 米

本年の米の收穫量は八百萬俵と見られてゐる。...

### 菜豆

新菜豆は愈々取引市場に傾けられ出し、古菜豆は一時...

取引商人により州外移出は行はれたるも北伯地方への移出は少なかりしが...

### 馬鈴薯

馬鈴薯の收穫時期は期を過ぎたが、本邦の馬鈴薯は...

### 蕃茄

蕃茄の最近サンパウロ市場の相場は...

### 甘藍

甘藍は最近其の市場販出数量が増加し...

サンパウロ蔬菜市場に於ける蕃茄の取引相場を記すれば次の如くである。

### 帝國主義?

日米、日英、日露の關係が新聞紙上でさかんに論ぜられるので海外にあつても...

### お茶呑み

秋田縣横手町野澤勝丸氏は飼現につき色々研究の結果、現に...

### 甘菜豆

最近の市場販出数量は相當大に増加し...

祝奉 マタラーノ工業株式會社代理人 吉野康三 ベ、ドワロ市	祝奉 佐藤次郎 リンス驛	祝奉 古賀直藏 ノロエステ線グワイサラ驛	祝奉 龜井寫眞館 龜井哲夫	祝奉 柴田一明 齒科醫院	祝奉 松本商店 チエテ移住地	祝奉 松田商店 チエテ移住地	祝奉 佐藤商店 チエテ移住地
--	--------------------	----------------------------	---------------------	--------------------	----------------------	----------------------	----------------------

奉祝天長節 代田旅館 代田喜一 ペンナポリス 郵函一〇一	奉祝天長節 佐藤旅館 佐藤常喜 ペンナポリス 郵函一〇一	奉祝天長節 平旅館 平藤作 ペンナポリス 郵函一〇一	奉祝天長節 柿本保 パール、ソルベテリヤ	奉祝天長節 新田寫眞館 館主 新田白陽 プロモツソン町 (商業銀行向角)	奉祝天長節 長尾旅館 グワラ、ベス町
---------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------	---	--------------------------

## 合組業工商ラサキアグ

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 森 | 鳴 | 佐 | 佐 | 佐 | 高 | 丸 | 森 | 太 | 岡 | 村 | 村 | 中 | 高 | 緒 | 本 | 本 | 桐 |
| 部 | 目 | 藤 | 藤 | 藤 | 山 | 山 | 山 | 田 | 田 | 田 | 木 | 島 | 橋 | 方 | 田 | 野 |   |
| 市 | 勝 | 嘉 | 庄 | 丈 | 濱 | 量 | 乙 | 竹 | 利 | 一 | 安 | 次 | 夫 | 郎 | 透 | 授 | 郎 |
| 藏 | 忍 | 衛 | 平 | 幸 | 由 | 吉 | 夫 | 作 | 一 | 彦 | 藤 | 誠 | 次 | 夫 | 郎 | 透 | 授 |





# 母親に御注意!!

## 母は子供の行爲の目標

### 性質の善導が仕上げ

子供の性質を善くすることが出来なかつたら、たとひどんなに強くても乃至は賢くても人間としては價値が少くない、程度龍を描いて眼を入れないのと同じである。

性を善くすることは、同時に大切である。同時に大切である。同時に大切である。

性質も同時に大切である。同時に大切である。同時に大切である。

## 不良少年は……便秘が多い……

便秘は不良少年をつくる一つのさへわづかに一人づつといふた。便秘は不良少年をつくる一つのさへわづかに一人づつといふた。便秘は不良少年をつくる一つのさへわづかに一人づつといふた。

## 日伯歌壇

岩波菊治選 梅氏に送る 浮草の如く暮せし十余年初日仰 ぎつて我が心悔ゆ

### 非常時の娘本日

おつとつこい……あなたお尻重い、アーしんど!!……でも學園の處女たちが赤やんおんぶの積古をおつばじめてゐるんやよこいません、非常時ニツボン女性として勇まじいかな大阪市立高女の乗道は背負ひ投げの一手傳授の場面です、ヤンキーガールがラグビーをやるのに娘さんが目をまはすやうに毛唐共がこんな場面を見たらピンカントンはお嬢さんにジュージウのこの手で鶏みたいに締められなくてさぞ幸はせだつたと思ふでせう

### 牛は音楽が大好き

牛は音楽が好きだといはれる、かつてスプースの牧場で乳をしぼる時に音楽を聴かせたところ通常の一倍半の量を各乳牛から得ることが出来たといふ話がある程だ、最近ロンドンで催された畜産共進會では音楽が牛の感覚にどう響くのかを試験したが、その結果は中々面白いものがある

### 眉の作り方

自分の眉が正しい自己判断で美しい眉……はいいけません、併し必要以上に濃すぎたり太すぎたり、形の悪かつたりしたときは直さなくてはなりません、剃刀で眉を剃りつけるといかに不自然に際立つた感じになるから毛抜きで抜くのが一番よいのです

### 呼寄 牧法律事務所

議案となつた帽子 一警官が自殺投身を救助の際帽子を流し、それを懸賞で購入するの懸賞事案へ堂々一議案として提出された、一巡査用帽子一個(中略)……全く不可抗力に基き流失せるものにして府縣制施行令第二十一條により賠償の責任を免除せんとす、これは兵庫縣の話である

### 呼寄 牧法律事務所

素直に一首の意味が判る様に歌ふべし、字體楷書にて明瞭に認められたし

奉祝天長節 藤井正一郎 カンバラ市	奉祝天長節 田中商店 北巴拉ナ、インガ驛	奉祝天長節 ホテル・カンバラ 池田正雄 カンバラ市
-------------------------	----------------------------	------------------------------------

奉祝天長節 濱田理髮店 北巴拉ナ ポンドラテス驛 郵函四十五	奉祝天長節 浅尾商店 北巴拉ナ、インガ驛	奉祝天長節 パール光岡 光岡武人 カンバラ市
--	----------------------------	---------------------------------

奉祝天長節 林秀雄 カンバラ市	奉祝天長節 竹田徳次郎 カンバラ市	奉祝天長節 パール秋吉定 カンバラ市 郵函三十三	奉祝天長節 一角町洋服店 カンバラ市	奉祝天長節 モデルノ洋服洗濯所 中村基 カンバラ市
-----------------------	-------------------------	--------------------------------	--------------------------	------------------------------------

奉祝天長節 大谷峯松 カンバラ市	奉祝天長節 竹田徳次郎 カンバラ市	奉祝天長節 禅院寶太郎 ……トレスパス中央小學校建築場にて…… カンバラ市 郵函十一
------------------------	-------------------------	---

奉祝天長節 五島商店 カンバラ市 郵函壹	奉祝天長節 木村初 カンバラ市	奉祝天長節 佐伯時春 支店 農産物仲買 深江國太 カンバラ市 郵函拾一
----------------------------	-----------------------	---













祝 奉  
一 佐藤光太郎  
プロミツソン

祝 奉  
一 藤井正人  
プロミツソン

祝 奉  
一 渡邊新太郎  
プロミツソン

祝 奉  
一 上塚周平  
プロミツソン

祝 奉  
一 安永良耕  
プロミツソン

祝 奉  
一 舍川甚太郎  
プロミツソン

祝 奉  
一 多賀時藏  
プロミツソン

祝 奉  
一 平田清吾  
プロミツソン

祝 奉  
一 池戸忠三郎  
プロミツソン

祝 奉  
一 下田眞藏  
プロミツソン

祝 奉  
一 坂本留次郎  
プロミツソン

祝 奉  
一 木村末松  
プロミツソン

奉祝天長節  
齒科 醫  
伊藤達馬  
ニッポランジャ町  
郵函ビリグキ三〇四

奉祝天長節  
ドットル  
川口熊太  
ビリグキ驛タクワリ

奉祝天長節  
岩本商店  
岩本爲三  
ビリグキ 郵函一九六

祝 奉  
一 坂本律造  
プロミツソン

祝 奉  
一 山口牛松  
プロミツソン

奉祝天長節  
田中旅館  
田中末喜  
ニッポランジャ  
郵函ビリグキ三〇四

奉祝天長節  
出森商店  
出森金造  
ペンナポリス 郵函一〇一

奉祝天長節  
中村旅館  
中村忠吉  
ビリグキ 郵函八十五

奉祝天長節  
宮崎八郎  
ビリグキ

祝 奉  
一 篠原商店  
ソロカバナ線ジョン・ラマリヨ驛

祝 奉  
一 中村商店  
ソロカバナ線ジョン・ラマリヨ驛

奉祝天長節  
後藤商店  
内外雜貨商  
ソロカバナ線ジョン・ラマリヨ驛

奉祝天長節  
上地淳吉  
珈琲 園  
ソロカバナ線ジョン・ラマリヨ驛

奉祝天長節  
黑岩秀吉  
カーザ東山代理人  
バラグアスー驛 郵函(R)

奉祝天長節  
三五商會  
内外雜貨・棉花仲買  
バラグアスー驛 郵函一四

奉祝天長節  
佐々木商店  
内外雜貨商  
バラグアスー町

祝 奉  
一 橋本重太商店  
内外雜貨商  
リオ・グランデ

祝 奉  
一 中順商店  
内外雜貨商  
ルテシア町

奉祝天長節  
精米・精珈所  
農産物仲買  
雜貨

精米・精珈所  
農産物仲買  
雜貨

店主  
柞磨宗一  
篠原豊一  
GERALDO USSU  
細見雅敏  
北川直重  
本田壽夫  
藤田武士

精米・精珈部  
小川俊雄  
青木滿壽男  
井清久雄

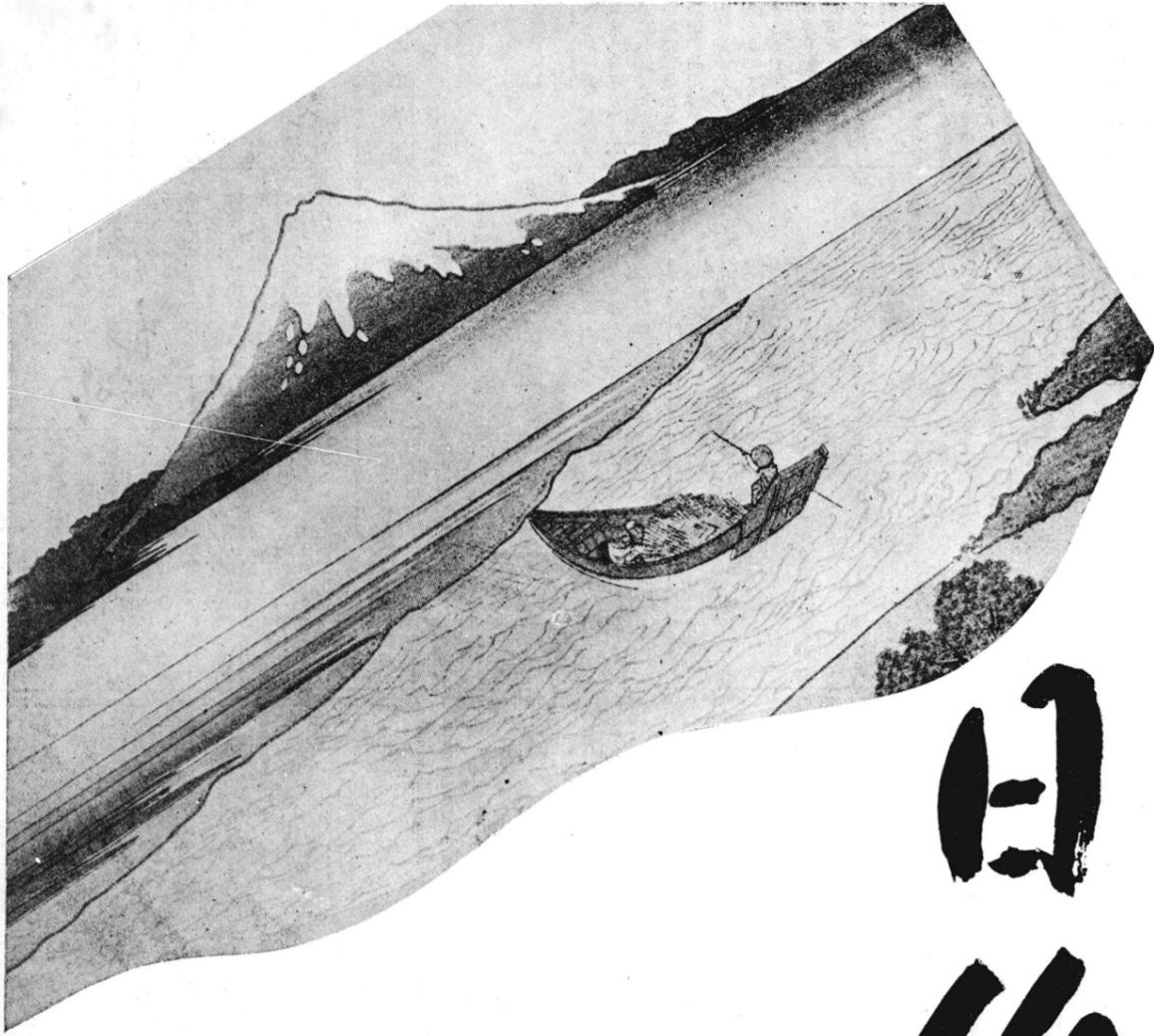
ソロカバナ線  
ジョン・ラマリヨ驛

祝 奉  
一 木商店  
内外雜貨商  
ルテシア町

祝 奉  
一 中順商店  
内外雜貨商  
ルテシア町

祝 奉  
一 橋本重太商店  
内外雜貨商  
リオ・グランデ





本社創立廿周年記念

# 第一回 日伯觀光團

期日 昭和十年一月廿日サントス出帆  
りおでじやねいろ丸

團員募集

久々に  
行きて見やうよ

爛漫

さく櫻花

崇高の富士の姿

生れし國の

其美しさを

主催 日伯新聞社

後援

大阪商船株式會社

海外興業株式會社

船賃及び母國に於ける汽車賃の割引  
その他の特典は追つて發表致します



# 孤立せる日本

## 依然旺盛な 抗日侮日觀念

内外の人心は、我が國が軍事擴張主義と關聯して論議されてゐるものもその證據だ。我が國の將來に對して、支那では考へてゐる。これら日本にとつて不利な觀察は、實は日本の新聞雜誌に、單行本に洪水の如く氾濫してゐる。勿論日本に有利な觀察記事はいくらあつても支那には傳へぬ、支那の新聞雜誌には日本に不利な記事が簡潔に論を付けて再録されてゐる。それが支那の一般大衆に日本への認識を誤らせず抗

## 孤立した日本 四面楚歌の聲

【抗日】 三ヶ年の中止を決定しながら機會さへあかみかへつてゐる。蘇聯、イ、三、五、六、年第三次海軍會議、イ、九、三、五、年三月三日の本國聯盟選が完了の時、委任状を返還する要求がある、日本がこれを拒絶すると、そこに日本對全聯盟國の抗争が始まる、その時こそ支那が

## 對歐米關係 孤立した日本 四面楚歌の聲

【反滿】 抗日の狙ひ目だと説く、いやそんなこと本國の財政は早晩行き詰る、あの十億の赤字公債が年々續いて行けばその利子だけでも大したものだ、そこへ持つて来て建艦競争、經濟封鎖となれば日本の財政は破綻する外はない、現に日本では國論が分立してゐるではないか

## 對蘇關係 ソの恐日病

【軍民】 離間の問題が軍部から叫ばれたのもそのためだ、農村救済問題

## ヒステリックのソの恐日病

【日英同盟】 その當時を回想すれば今日の有様は實に味氣ないものだ、敵かといへば敵でもない味方でもない、敵とするには張合ひなく味方では頼りがない、勿論日獨關係に至つては大した實利

## 日英同盟

【日英同盟】 その當時を回想すれば今日の有様は實に味氣ないものだ、敵かといへば敵でもない味方でもない、敵とするには張合ひなく味方では頼りがない、勿論日獨關係に至つては大した實利

## 北滿事變

【北滿事變】 北滿事變、たとか底はねとか、位で全體が動揺したのか、支那でも聯盟の反日的決議や會合に参加を拒絶した、内心中

實害がなく、日佛、日蘭の關係は佛領印度支那、蘭領東印度の關係から蘭佛兩國の如きは大きい日本に好意を寄せ少くとも遠慮を示すべきなのに日本商品進出に怖えてやうもすれば

【日貨防衛】 イタリイに至つては最も我が立場を諒解してゐると思はれたが先頃ムツソリ首相は「新黃禍論」を稱へて世界の耳目を聳動せる仕末である

【吹二十五杯の賽銭】 關東の賽場成田山では一月十三日警官立會元日からのお賽銭を勘定した、手の切れる十圓札銀貨、銅貨とりませ實に吹に二十五杯、前年より四増加一杯二百二十圓として全部で五千五百圓とは大した景氣である

【長野縣本測候所では天氣豫報の謬を發表した、曰く太陽が赤く見えたから、日月の傘がぶり波状雲が空に現れ、又山が近く見えるのはいづれも天氣悪くなる前兆、朝霧の多いの朝の雷、夕焼は晴れ、便所のくさい日は雨、太陽の黄ろく見える日は?】

奉祝天長節 岡崎仙次 ベラ・クルス	奉祝天長節 平井房太良 バウル	奉祝天長節 櫻木鐵造 ベラ・クルス	奉祝天長節 浦本商店 ベラ・クルス	奉祝天長節 齋藤好位 ベラ・クルス	奉祝天長節 松下相吉 ベラ・クルス	奉祝天長節 吉田寫眞館 マリ、ヤ市	奉祝天長節 太田八藏 ベラ・クルス	奉祝天長節 製菓所龜屋末廣 マリ、ヤ市	奉祝天長節 吉村仁藏 マリ、ヤ市	奉祝天長節 中平三夫 ベラ・クルス	奉祝天長節 上田商店 ベラ・クルス	奉祝天長節 島袋完法 マリ、ヤ市	奉祝天長節 佐藤商店 マリ、ヤ市	奉祝天長節 山下商店 マリ、ヤ市	奉祝天長節 日本藥局 マリ、ヤ市	奉祝天長節 澤尾旅館 マリ、ヤ市	奉祝天長節 澤尾磯七 マリ、ヤ市	奉祝天長節 澤尾啓三 マリ、ヤ市	奉祝天長節 沖商會 マリ、ヤ市	奉祝天長節 泉田齒科醫院 マリ、ヤ市
-------------------------	-----------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	---------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	-----------------------	--------------------------



# 暗雲低迷する東亞

## 米、建艦に着手?

### 齋藤大使、我態度を辯ず

【華府廿三日發】下院海軍委員を提出したが同時に齋藤駐米大使は、米海軍改造案の建設計画に着手すべしと云つてゐる。

大體右建艦案實施は任意と云ふは、それが爲の豫算はとつてないが、今次日本外務省の聲明以來事態は根本的に變改され軍縮會議にかけられた期待も薄らいだ譯である。

又アメリカの極東平和に對する關心はアジアにおける日本の弱業に對する南京國民政府當局の強硬なる反抗的態度により更に加重されたる氣味あり、華府政界では、日本が斯かる態度をとるに至つては九三五年の軍縮會議も到底見込なきものと觀測し、アメリカとしても日本の外極東の問題に他國の容かき不可能なならしめる如き大海軍の充實を日本に默認する管はなく、又比島要港放棄に關する日本の通告など斯くならずは到底認容する譯にはゆかぬと見てゐる。

但し、齋藤大使は昨日の聲明を訂正し、列國が日本を除くして新らしい危機を招くが如き折衝を支持し、日本は當然日本に對する非友好的の行爲を見做すと言つたのは「日本にも相談して欲しい」との意味である。

と云ひ、日本は借款の形式による支那援助、武器の供給は好まらぬ事態を惹起する虞れあるものを除く外列國の正當な對支折衝に對して彼此異議を挟む意思はないと辯じてゐるが、大使のこの訂正の裏を見ると、日本は列國の對支關係が日本に對し非友好的であると否とに拘らず、今日まで純然たる商業に屬するものと考へられた行爲までもそれを鑑識する權利を保留したいといふものゝ如くである。

## 空軍擴張

【東京二十四日發】傳ふるところによれば日本空軍は向ふ三ヶ年間に倍加される計畫あり。

かねて計上された豫算にかねて一九三六年までに五百台の新飛行機を建造するはす。

因に現在日本空軍の所有機は六百四十六台と謂はれる。

## アメリカを懲せ

【ロンドン廿日發】英外務省は駐日大使から日本外務省當局談として諸新聞に發表された「諸外國の支那内政干渉」に關する兩度互に互の通知を入手した英國官廳では右に付次の如く觀察してゐる。

支那の門戸開放に好意を示した第二の聲明は第一のより遙かに穏やかになつてゐるが、結局日本は極東に利害關係を持つ諸外國への警告を含んでゐると。

新聞紙は、

日本の聲明はアメリカの對支借款の言明はアメリカの對支借款の一部をメキシコより的小麥購入費に充て、他は聯盟に對する分擔費支辨のためのクレジットとなすもので、而も右借款は一九二〇年以後九ヶ國によつて指定された四銀行の合同責任に係り従つて日本はこれに對し苦情を申出する筋はないのである。

## 日本は白狀した

### 今後の行動が見もの

#### ロンドン言論界の觀測

【ロンドン十九日發】支那國際援助對策に對しその代辯者を以てせる日本外務省の回答に對する當市言論界の論調はまことに陰鬱である、官廳筋では意見の表示を差控へてゐるが一般に日本外務省代辯者の採つた態度を重大視し、これにより極東に利害關係ある國々との間に當然一問題持ち上るものと觀測されてゐる、在東京外國通信員の報道によれば、日本はこれによつて隣邦諸國と協同して對支關係を管理しようとの野心を表明せると受取れるが、それは支那關係の諸條約に對し華府において締結された九ヶ國條約による「門戸開放」原則に反しはせぬかと氣遣はれ、日本が果して如何なる方法によつてその極東政策を行ふか、殘された唯一の問題であるとしてゐる、クローキル紙は西洋諸國は今や日本によつて建てられた新しいモノロー主義を極東に迎へることになつたとのべ、その他の新聞も日本の態度を指示批判し、これによつて容易に解決出来ない大問題が惹起するだらうと豫測してゐる。

## 支那を救へ

### 陸軍高官談

【東京十九日發】陸軍省の一高官は北支支隊と日本との政治關係を承認し、た南昌會議以來日支關係は非常に好轉したと語り、

支那は内政問題に引續き悩まされ到底抗日などに構つてゐられないことを知つたのだ、支那の經濟再建に對し財政的援助の必要なるは勿論だつたが、即ち主要人物間に異議を生じ實現に至らなかつた、即ち一は歐洲に頼らうとし他はアメリカの袖にすがらうともし、此間に在つて最高位を擁する蔣介石が何れともし決かねて遂行してをるといふが實情である。

かくて外務省代辯者の言葉を裏書きし、この極東平和に世界平和促進の爲に大運動を起し國際的支那救済の必要ある旨を説いた。

## 見極め付くまで

### アメリカは傍觀する

【華府十九日發】日本の對支政策に關する東京通信につき國務省では絶對に批評を避けてゐる、東京政府の關係諸國に呈示する借款は一九二〇年以後九ヶ國によつて指定された四銀行の合同責任に係り従つて日本はこれに對し苦情を申出する筋はないのである。

【ロンドン廿四日發】極東問題に對し最近發表された支那代辯者の聲明に關し新聞聯合は左の如く報じた。

公表された聲明は廣く折衝の場を外交方針に對して演説する外、支那の主權に何らの變改を招かざるものと見られてゐる、但し、右通告及び東京政府の決議は英政府の覺悟に對する最初の辯駁であるといはれてゐる、且つこの立場であつて諸外國の理解を希望する所以である。

## 極東平和の保障

### 帝國の使命はこれだ

【ロンドン廿四日發】極東問題に對し最近發表された支那代辯者の聲明に關し新聞聯合は左の如く報じた。

公表された聲明は廣く折衝の場を外交方針に對して演説する外、支那の主權に何らの變改を招かざるものと見られてゐる、但し、右通告及び東京政府の決議は英政府の覺悟に對する最初の辯駁であるといはれてゐる、且つこの立場であつて諸外國の理解を希望する所以である。

## 奉祝天長節

### 片山秋之助

#### カフエランヂヤ

## 奉祝

# 大阪商船會社

### サントス駐在員事務所

## 奉祝天長節

内外雜貨食料品  
農産物並アルコドン仲買

## 大海商店

カタンゾーバ市  
郵函二五九番

## 奉祝天長節

アラ、クアラ線  
在住者に告ぐ

非常時局に鑑み吾々同胞の落着く先の覺悟が最も緊急の大問題に差迫れる折から既に万人に依つて認證され、且時節柄人氣の焦點にある英シンジケートの土地を更に實地に御紹介申可く此の際視察團の大募集を斷行す

今や彼の地の真相を知る可き絶好の機會なり、迷はず應募されよ

一、期 日 六月二日  
一、所要日數 一週間  
一、團 費 百五十銖 (滞在費三分割引の勘定)

尙詳細は左記宛

アララクアラ線カタンゾーバ市  
バタク、セボラ、果物 仲買商  
梶田蔬菜園  
梶田 薫

北パラナ土地會社  
日本人代理部  
Caxa Postal, 58 - CATANDUVA  
L. Atraguera

## 奉祝天長節

健康第一は優秀な能力を發揮する基である  
保健衛生には彌が上にも御留意を

本會無料配付藥品  
チブス、赤痢豫防注射薬、痘苗

本會實費取次藥品  
鹽酸キニナ錠、鹽酸エメチン注射薬、硫酸亞鉛水(目薬外數十種)  
廉價で確實で取扱ひの親切敏速な、實費取次藥品部の利用を忘れぬやう

## 奉祝天長節

### 片山秋之助

#### カフエランヂヤ





# NIPPAK SHIMBUN

Jornal Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XX

São Paulo - Domingo, 29 de Abril de 1934

Num. 881

## O maior dia do Nippon

Mais um anniversario completa hoje S. M. o imperador do Nippon, figura de maior relevo do Imperio e que gosa de inconfundivel actualização politica não só entre os seus subditos como no mundo inteiro.

O imperador Hirohito é o primogenito do fallecido ex-imperador, tendo nascido em 29 de Abril de 1901. Foi proclamado herdeiro do throno em 3 de Novembro de 1916, com a idade de 15 annos. Empreheheu, nessa mesma qualidade uma viagem de estudos e observações, por toda a Europa, partindo do Japão em 3 de Março de 1921, e regressou em 3 de Setembro do mesmo anno.

Subiu ao throno imperial a 25 de Dezembro de 1926, constituindo-se o centesimo vigesimo quarto imperador, pela morte de seu pae, imperador Yoshihito, de accordo com a constituição japonesa.

O actual mikado sob cujo reinado se iniciou a era denominada «Showa», que significa «Paz Escurecida», é o unico na especie até hoje, que conhece em pessoa toda a Europa e portanto fido até a presente data como o mais europeizado de todos os mikados que o Nippon tem tido até o presente, sendo que a sua erudição e os interesses da materia de Historia Natural são extraordinariamente e invulgares, mantendo por sua conta, dentro do proprio palacio imperial um dos mais completos e bem aparelhados institutos do dito genero que se possa desejar no mundo.

S. M. trabalha activamente com seus ministros na obra patriótica do engrandecimento de sua poderosa nação, empregando os mais modernos e aperfeiçoados processos scientificos em todos os campos de actividade humana, para

## Noticias e telegrammas do Nippon

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos Jornaes)

### A divida nacional

Um telegramma especial para os jornaes brasileiros comunica que a divida nacional japonesa consolidada atinge actualmente 8.189 milhões de yens.

No ultimo anno fiscal essa divida teve o augmento de 1.084 milhões de yens e, ao que se prevê, será augmentada este anno de mais 900 milhões.

Considerando o montante dos bonus do Thesouro em circulação e dos bonus emitidos para garantir a manutenção dos «stocks» de arroz, assim como as perdas de perto de 1 bilhão de yens devido ás diferenças cambiais no tocante ás dividas externas, calcula-se que a divida total do Japão attingirá em Março de 1935 a 10 bilhões e 500 milhões de yens, contra 6 bilhões em 1931.

### Nova linha marítima

Pela agencia Rergo foi annunciado que a companhia de navegação «Nippon Yusen Kaisha» resolveu estabelecer um serviço mensal regular com a America Central, a partir de Agosto proximo.

Seriam empregados nesse serviço seis vapores, de 7.000 toneladas, que ora servem na linha de Nova York, onde seriam substituidos por seis novos paquetes de 7.800 toneladas, actualmente em construção.

acompanhar o progresso dos paizes mais adiantados, e acompanhar com interesse os acontecimentos que se dão no estrangeiro e os importantes assumptos internacionais.

Desejando conhecer melhor o Brasil, em 1929, mandou chamar ao palacio imperial o primeiro secretario da embaixada do Japão no Rio de Janeiro, dr. Ryoji Noda para melhor informar-se, manifestando, durante toda a longa conferencia, muita attenção e grande entusiasmo pela descripção que era feita.

Data de ahi o alargamento das relações nipponicas brasileiras por ter sabido o eminente homem de estado o carinhoso acolhimento com que são os nipponicos recebidos no Brasil.

Apesar da polemica movida por alguns politicos, a maioria do povo brasileiro compartilha hoje da alegria do povo nipponico, regosijando-se de ter por amigos os subditos de tão talentoso imperador, e fazem votos de eterna amizade, ao illustre anniversariante do Sol Nascente.

### A politica nipponica em face de auxilios prestados á China

Foi divulgada oficialmente pelo governo nipponico a seguinte nota:

«O Ministerio das Relações Exteriores do Japão se oppõe a empréstimos por parte de governos estrangeiros ao exercito ou á aviação chinesa e considera acto inamistoso o envio, por parte de governos estrangeiros, de conselheiros politicos ao governo e ás unidades militares chinesas».

Um acatado diplomata autorizado a falar em nome do ministerio do negocios estrangeiros expoz aos representantes da imprensa as razões pelas quaes o Japão se oppunha á intervenção de certas potencias nos negocios chinezes, mais ou menos nestes termos:

«Não temos nenhum plano de conquista contra esta ou aquella região da China. Desejamos despertar a attenção das potencias estrangeiras para os inconvenientes e, mesmo, para os perigos de certas iniciativas que se chocam com as proprias intensões quasi sempre generosas.

Não pensamos absolutamente em ferir o principio da «porta-aberta». Reconhecemos a cada um o direito de commerciar com a China, de concluir accões commerciaes e de fazer empréstimos, mas desejariamos que as potencias reconhecessem ao nosso paiz competencia particular no tocante ás questões chinezas, porque o Japão está chamado a soffrer em primeiro logar os effeitos dos erros politicos e das imprudencias que viessem a ser commettidas.

Não poderíamos ser criticados por nos mostrarmos algo desconfiados quando vemos organizações internacionais, como a Sociedade das Nações, se prepararem para fornecer á China auxilios materiaes e financeiros, que serão desviados de seu destino e explorados por certos partidos chinezes contra nós. Sem pedirmos ás potencias e á Sociedade das Nações, da qual aliás deixamos de ser membro, que nos consultem, pensamos todavia que, para o futuro, os interesses particulares do Japão devem ser levados em conta em todas as iniciativas concernentes á China».

### Um navio tanque incendiado

TOKIO, 17 — O navio tanque «Morgami Maru», de 2.208 toneladas, incendiou-se ao largo da ilha Miyé. O «Nitto Maru» recolheu 32 tripulantes do navio incendiado.

### «Mandchú-Siku» é o nome do novo Imperio

Foi annunciado que o nome official do novo Imperio Mandchú será dóravante Mandchú Siku, que significa exactamente Imperio dos mandchús.

Praticamente, entretanto, como já se tomou o habito, continuará a ser usado fóra dos actos officiaes o nome de Mandchú Koku, que significa o Imperio Mandchú.

### NOVA COLLABORAÇÃO

No proximo numero iniciaremos em nossas columnas a collaboração do distincto sr. consul Carlos C. Cintra, que gentil e desintereessadamente collocou sua brilhante penna ao lado dos nipponicos na polemica ora movida contra elles na Assembléa Constituinte.

### Um povo calumniado

O distincto clinico e fazendeiro, residente em Araraquara, dr. Renato G. Bastos, recebeu o artigo abaixo, vehemente e justo protesto á campanha anti-immigratoria levantada na Assembléa Constituinte.

«Tudo que se tem dito contra a immigração japonesa, na Assembléa Constituinte, mostra uma lamentavel ignorancia do assumpto.

Estamos em face de um problema que é de importancia vital para o paiz e que, talvez, por isso mesmo, só pode ser apreciado por technicos.

Até agora apenas dois pontos, entre outros muitos de maior significação, têm servido de apoio aos argumentos dos que combatem a entrada dos nipponicos no Brasil: — a inassimilação desses immigrants e o perigo que elles representam para a unidade nacional.

O primeiro ponto encontra o mais eloquente desmentido no exemplo observado em S. Paulo, onde os filhos de japonezes falam o portuguez nas escolas e nos gymnasios, alem de pertencerem aos corpos de escoteiros. Só não prestam serviços ao Exercito, porque em São Paulo não tem havido sorteio militar.

Se isso não quer dizer assimilação, não sabemos que significação tem essa palavra para os oradores da Constituinte.

O segundo ponto é de maior fragilidade ainda, considerando-se,

## Problema imigratorio japonês nos Estados Unidos da America do Norte e no Brasil

T. U.

### V — Os cientistas e o problema imigratorio

Foi um espanto em contraste com esse facto real, ouvir na Assembléa Constituinte as vozes dos illustres deputados, como do eminente professor Miguel Couto que combatem a condemnação franca a imigração japonesa no Brasil, exigindo a restricção, até a prohibição da entrada da corrente immigratoria da mesma nacionalidade. A attitude desses deputados, sem duvida é patriótica visando assegurar o bem para o futuro do pais. Mas antes de combater e condenar precipitadamente essa corrente immigratoria, devemos estudar mais e com carinhos os japonezes. O professor Miguel Couto e outros deputados que combatem a imigração japonesa, alegam os mesmos fundamentos que serviram no movimento anti-japoneses nos Estados Unidos; tes como, «inassimilabilidade e imperialismo», citando de proposito, as obras que os norte-americanos escreveram para excluir as raças latinas — nossos irmãos — ou para combater com a imigração japonesa, ponderando a superioridade da raça nordica, de modo que apresenta um aspecto curioso de os argumentos dos discursos proferidos por diversos deputados na Assembléa Constituinte coincidirem perfeitamente com os dos discursos contra a imigração japonesa proferidos no Congresso Estadual de California e no Congresso Federal de U. S. A.

Ler livros e concordar com todo elle, sem reflectir em que época foram publicados, em que ambiente, tendencia ou pensamento e opinião publica, nos pontos de vista social, politica ou economica nessa época, etc. é um grande erro. Sem exagero podemos dizer que as obras publicadas nos Estados Unidos, entre 1920 a 1924, referentes aos problemas imigratorios e raciaes, foram escritas com o intuito de legislar a famosa lei de imigração de 1924, despertando e orientando opiniões de estadistas e do povo americano.

E' puro engano pensar que a lei de 1924, fosse feita para excluir japonezes, pois, essa lei visou a restringir em menor numero a entrada dos immigrants procedentes dos paizes mediterraneos, elegendo a inferioridade da raça latina, cujo sangue corre em nossas veias. O golpe dessa lei foi sentido mais profundo na Italia e nos outros paizes de sul europeos. Desde 1924 o que mais preocupa o pensamento da Norte America é como aplicar «a entrada por quota» para os latino-americanos, pois a entrada dos japonezes era insignificante em virtude dos «Gentlemen's agreements». Por consequencia da exclusão dos immigrants procedentes da Asia e Europa do Sul o numero da entrada dos mexicanos se multiplicou e occupou em primeiro lugar, constituindo presentemente maior calamidade o problema da imigração mexicana no Estado da California. Nos Estados Unidos é quasi impossivel fechar a porta, vedando a entrada dos mexicanos, porque se essa porta for fechada, terá de ser tambem para os procedentes de todos os paizes da America Central do Sul, o que não é possível em vista da politica adotada para com a america-latina, caindo assim os Estados Unidos num dilema. De modo que a lei de imigração que devia ter sido reformada em 1927 não foi possível, continuando em pé até hoje.

Onde que está razão, pois, para que temos de ir buscar a legislação americana premeditada para excluir os immigrants de raças latinas e vedar a entrada dos japonezes ou recorrer aos argumentos e medidas servidas para essas legislações injustas?...

Do sentido exacto, aqui no Brasil, ainda não temos a questão imigratoria, nem tão pouco o problema racial. Por consequente não é politica acertada discutir ou argumentar com preconceito capaz de provocar o surto do problema racial, em contrario do espirito tradicional brasileiro, pois isso equivale a jogar a pedra na agua tranquilla para fazel a agitar-se sem necessidade.

(Continua)

alem de outros factores historicos e de ordem politica, a distancia que nos separa do Japão. Não ha, como se vê, perigo nenhum á unidade nacional. Não ha, igualmente, typo ethnico uniforme a preservar dadas as condições mesmas do paiz e a diversidade dos seus typos.

A verdade é que o japonéz é um grande povo, de um espirito de organização formidavel, e que tem prestado a S. Paulo inestimaveis serviços. E', por isso mesmo, um povo calumniado, o que não impede de merecer as sympathias francas da maioria dos brasileiros.

A politica colonizadora do Brasil precisa de ser orientada por technicos, com patriotismo e segurança, e não por espiritos apaixonados e leigos no assumpto.

A proposito dessa campanha, que, felizmente, não vae tendo ressonancia entre nós, os srs. Cezario Monteiro e Bastos, iszen-

deiros de Alvarenga, enviaram Sociedade Rural Brasileira o seguinte telegramma:

«Presidente Sociedade Brasileira — São Paulo. Abaixo assignado fazendeiros em Alvarenga appellam V. Ex. defesa imigração japonesa elemento indispensavel nossa lavoura café e grande factor Progresso São Paulo. — Cezario Monteiro & Bastos.»

**NIPPAK SHIMBUN**  
Director-Proprietario:  
**SACK MIURA**  
Redactor da pagina brasileira: José Soló  
Redacção, Administração e Officinas:  
Rua da Liberdade, 144-A e 146  
Caixa Postal, 375  
Telephone 2-3726  
Endereço Telegraphico: «Nippak»  
SÃO PAULO - Brasil  
ASSIGNATURAS  
Para o Brasil  
Por anno 30\$000  
Por semestre 16\$000  
Numero avulso \$500  
Para o Exterior  
Por anno 60\$000  
Anuncios  
Temos á disposição dos interessados uma tabella completa de preços para anuncios nesta folha. Telephone 2-3926

優良米糠  
大豆粕着荷  
アニヤンガバウー街一七〇  
頼信商店  
電話二六〇・郵函二二二

Quem lê e julga no seu conjunto as emendas propostas ao ante projecto e ao substitutivo constitucionaes, fica surpreendido ante a guerra e caça feita por um pequeno grupo de constituintes os estrangeiros e suas propriedades, bem como ao negro e seus descendentes, esquecidos de quanto devemos aos nossos antepassados.

Todos os embaraços são apresentados para a entrada de estrangeiros, chegando até a prohibição.

Ante o protesto geral, porém, adoptaram o intento de restringir a entrada a uma pequena quota, primitivamente estabelecida por Miguel Couto para a raça amarella em 5 por cento e prohibição de entrada dos negros e seus descendentes — a seguir, alterada para dois por cento para a raça amarella; mantida a prohibição aos africanos e descendentes.

Ante o evidente descabimento do texto das emendas perante os conceitos emitidos para a sua pretendida justificativa, já no substitutivo se condensou em a emenda numero 1.619 em concertos ainda mais infelizes, como passamos a evidenciar.

Eis a emenda Miguel Couto:

«Substitua-se o artigo 161 do projecto pelo seguinte:

Artigo. — E' livre, com as restricções que a lei estabelecer, a entrada de immigrants de qualquer procedencia no territorio nacional, não podendo, porém, a corrente immigratoria de cada paiz exceder, annualmente, o limite de dois por cento sobre o numero total de seus respectivos nacionaes aqui fixados durante os ultimos cincoenta annos.

Paragrapho unico — E' vedada a concentração de immigrants em qualquer ponto do territorio da União, cabendo á lei regular a materia no que respeita á selecção, localização e assimilação do alienigena.

## Esquecendo os antepassados e combatendo os estrangeiros

(De O JORNAL)

Bruno Lobo

Professor da Universidade do Rio de Janeiro

Miguel Couto — Xavier de Oliveira — Arthur Neiva — Theotônio Monteiro de Barros — A. C. Pacheco e Silva — Edgard Teixeira Leite, etc., etc.

O texto da emenda 1.619 se divide claramente em duas partes perfeitamente distinctas, contraditorias e antagonicas.

Na sua primeira parte diz: «E' livre», com as restricções que a Lei estabelecer, a entrada de immigrants de qualquer procedencia no territorio nacional. Já este «é livre» para seguir ser dito — «com as restricções que a lei estabelecer» — foi evidentemente collocado para conseguir maior numero de assignatura dos que se deixaram arrastar pelo abalo assignado, em lista promovida pelos apaixonados inimigos da imigração amarella, ou mais precisamente da japoneza, apesar dos elogios feitos aos nipponos.

Na sua segunda parte diz a emenda 1.619: «não podendo, porém, a corrente immigratoria de cada paiz exceder, annualmente, o limite de dois por cento sobre o numero total de seus respectivos nacionaes aqui fixados durante os ultimos cincoenta anno».

Não é necessario grande esforço para mostrar a evidente contradicção entre a primeira parte da emenda e a segunda.

«E' livre, com as restricções que a lei estabelecer... o que significa não ser mais livre. E logo a seguir: — não podendo, porém, a corrente immigratoria de cada paiz exceder, annualmente, o limite

de dois por cento sobre o numero total dos seus respectivos nacionaes aqui fixados durante os ultimos cincoenta annos — o que significa ainda que, além de não ser livre, pois existem as restricções impostas pela Lei ordinaria, a corrente immigratoria, antes de ser operada a resolução legal, já sobre ella é feita a restricção, graças á seguinte imposição: — «não podendo, porém, a corrente immigratoria de cada paiz exceder, annualmente, o limite de dois por cento sobre o numero total dos seus respectivos nacionaes aqui fixados durante os ultimos cincoenta annos».

### Uma sub-emenda acuteladora

Comtudo, o deputado Idallo Sardemberg, em movimento muito de familia, certamente como neto que é de estrangeiro — como aliás todo brasileiro, — por causa das duvidas, apresentou a seguinte sub-emenda, que tomou o numero 1.655:

— «Embora ao artigo 161, caso seja approvada a redacção proposta na emenda subscripta por Miguel Couto e outros.

Paragrapho — As disposições deste artigo não se applicam aos immigrants de nacionalidade portugueza».

A' vista do exposto têm a palavra os descendentes de italianos, allemães, hespanhoes, syrios, etc., emfim, de todas as nacionalidades que tão grandes serviços têm prestado ao Brasil, tal qual como os portuguezes... principalmente contribuindo para formar o povo brasileiro.

E' muito curiosa, pela sua manifesta de orientação, a justificativa da emenda Miguel Couto.

Inicialmente são confundidas de modo lamentavel as diversas modalidades de imigração, principalmente a agricola, com a destinada a entulhar as grandes cidades pelos sem trabalho.

(Continua)